

1	チーム名（研究対象領域・教科）	小学部 自立活動 1
2	メンバー	小学部教員 5名
3	チームのテーマ：児童が興味をもち、意図的に操作することができる教材・教具の工夫	
4	対象児童に願う主体的な姿	
	A	・自分の動きで教具を動かし、制作活動に取り組む姿。
	B	・リズムの違いを聞き分けて表現できる姿。
	C	・見ようとする意識を高め、自分から活動に取り組む姿。
	D	・興味をもって見たり、やってみようと手を伸ばしたりしながら活動に取り組む姿。
	E	・自らの動きで教具を操作し、楽しんで取り組む姿。
5	研究実践の内容	
	(1) 研究の経緯	
	本チームはチームのテーマの下、メンバー各々が対象児童に願う主体的な姿を引き出すため、教材・教具をメインとした研究に取り組んだ。研究の経緯を以下の表に示す。	
	6月～7月	現在の状況の把握 対象児童の現在の状況を授業の動画を見ながら確認をし、今後の教材・教具について検討した。
	9月～11月	研究授業及びグループでの検討 授業の様子を動画で見ながら評価シート（次ページ参照）を用いてねらいの妥当性や、教材・教具の有効性について検討した。
	10月～12月	検証授業及び研究のまとめ 検討の際のメンバーからの意見や授業の振り返りを基に検証授業を行い、研究のまとめを行った。
	(2) 研究の実際	
	事例D児	
	① 教材・教具に関する対象児童の状況	
	<ul style="list-style-type: none"> ・水にふれたり、プールで泳いだりすることが好きで、プールでは大きく手足を動かすことができる。 ・水中にある遊具（教具）を手探りで取り、口まで持っていき確認する。（興味があると近づいて手を出す動きをする。） ・繰り返し行くと透明の桶から、カプセルや水風船が転がってくることを理解出来たようである。 	
	② 研究授業について	
	授業場面	桶を使って音の鳴るカプセルや、水風船を転がして遊ぶ場面
	授業のねらい	自ら教材に触れ、意図的に操作することで楽しさを味わえる授業
	ねらいを達成するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し教材に触れる。（素材を視覚・触覚・聴覚で感じさせる） ・桶を使った遊びを何度も行う。 ・教師や友達のやることを見る。
	教材・教具の工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・桶は、外から見られるように作成した。 ・転がす物を音の鳴る物や、つかみやすい物・興味のある物を準備した。
	対象児の様子	転がす教材や、桶の使い方を知り、積極的に遊ぼうとする様子
	③ グループでの検討	
	「評価シート」を用いて、教師が願った姿がみられたか、ねらいが妥当か、教材・教具は有効だったか、検討した。	
	④ 検討後の変化と今後の課題	
	水遊びに限らず、桶を使って転がす動きを応用した遊びを行ってみてはどうか	
	→転がした先に、スズランテープを貼った桶や太鼓を置き、カプセルが転がっていくのを楽しんだり、音が鳴るのを楽しんだりした。	

6 成果と課題

対象児童が興味をもち意図的に操作できる教材・教具はどのようなものか、主体的に活動する児童の姿を思い浮かべながら、メンバーそれぞれがT・Tで話し合ったり、教材の改良を重ねたりして研究を進めてきた。チームでの検討の際には、評価シートを用いることで、ねらいの妥当性や教材・教具の有効性について意見を交換した。教材・教具の研究を通して、児童が意欲的に取り組める授業に近づくことができた。

課題としては、児童の体調によって十分に教材・教具を使用することができず、見通しをもって自発的に活動することができなかつた場合があつた。今後は児童の意欲、動き、見え方、聞こえ方などの把握とともに、児童がすぐに分かつて取り組める教材・教具の開発を進めていきたいと考える。

※資料

小学部自立活動①グループ 評価シート

対象児童()	研究授業「 」	記入者()
教材・教具に関して (興味・関心、身体の動きなど)	担当教員が記入	
学習のねらい		
興味・関心・学習意欲 (見る、さわる、やってみる)	思考力・判断力・表現力 (考える、決める、伝える、教師とのやりとり)	知識・技能 (わかった、できた)
<教師が願う姿>	<教師が願う姿>	<教師が願う姿>
	担当教員が記入	
<見られた場面>	<見られた場面>	<見られた場面>
ねらいは妥当か。	グループのメンバーが記入	
教材・教具は有効か。		
次回に向けてのアイデア		